

(2) 各教科の通過率による分布状況（学年別）

ここでは、各設問の通過率を集計した結果を分布として示してある。

この分布によって、実施学年間や教科間の分布の比較を行うことができる。ただし、教科や学年が異なるため、教科ごとの定着状況や学年が進むにつれての定着度の大きな傾向等をとらえる際の参考とすることが望ましい。

ア 国語科の概要

平均通過率は、どの学年もほぼ同程度で、おおむね定着している状況であったが、通過率の分布を見ると学年によって通過率のばらつきに違いが見られることが分かる。なお、学年が進むにつれて、通過率が高い設問数が減少していることが分かる。

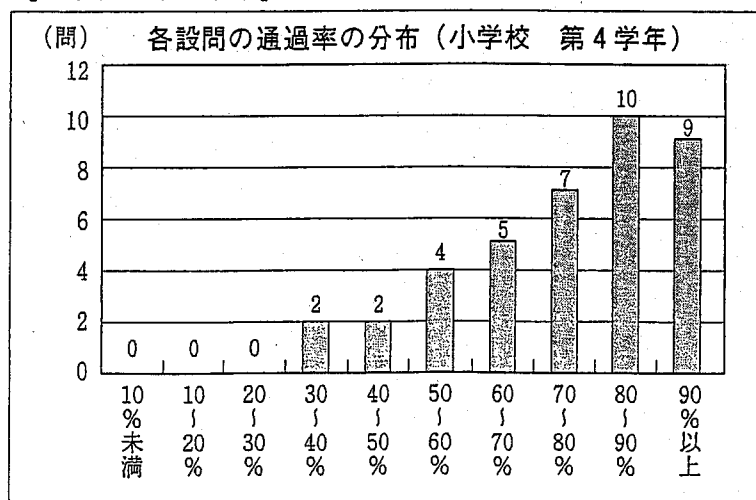
(ア) 各設問の通過率の分布（学年比較）

（単位：問）

通過率の分布	国語		
	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
90%以上	9	9	4
80%以上90%未満	10	4	6
70%以上80%未満	7	4	10
60%以上70%未満	5	5	5
50%以上60%未満	4	3	3
40%以上50%未満	2	4	2
30%以上40%未満	2	0	0
20%以上30%未満	0	1	0
10%以上20%未満	0	0	0
10%未満	0	0	0
設問総数	39	30	30

(イ) 小学校第4学年の通過率の分布

【小学校 第4学年】



【考察】

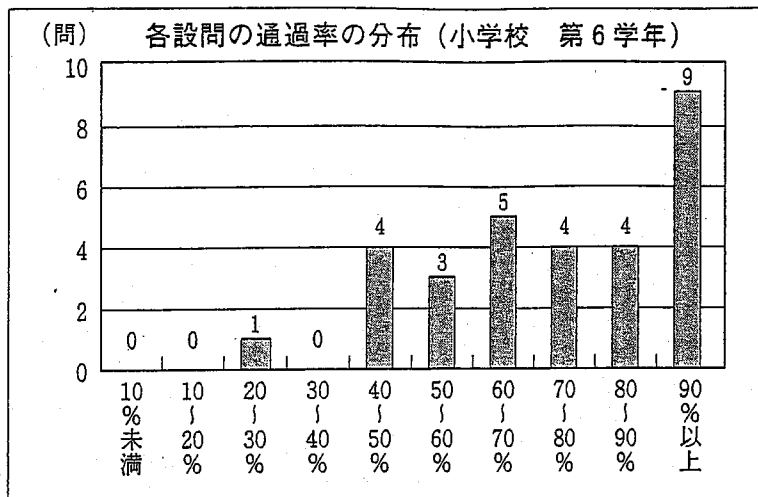
第4学年の通過率は、平均75%を超えており、通過率が50%未満のものは、わずか4問にとどまっていることから、基礎的・基本的な内容については、かなり定着していると判断してもよいと考える。

今後は、主述の照応した適切な文を書けないこと、長音の表記や指示語

の指す内容を正確に読みとれないこと等、今回の調査で明らかになった点についての指導方法の工夫・改善を行い、基礎・基本の確実な定着を図っていくことが大切である。

(ウ) 小学校第6学年の通過率の分布

【小学校 第6学年】



【考察】

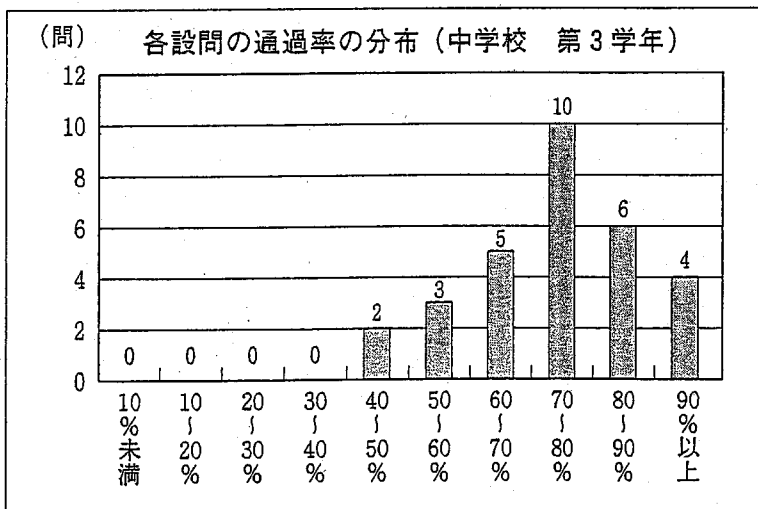
第6学年の平均通過率は、70%を超えており、また、通過率が50%未満のものは、5問にとどまっていることから、基礎的・基本的な内容については、ほぼ定着していると判断してもよいと考える。

しかし、通過率が26%と非常に低い設問も見られることから、重点的な指導が必要である。

今回の調査では、特に、目的や意図に応じて自分の考えを効果的に言けない児童が多いことや文の構成について初歩的な内容を理解できていない児童が多いことが明らかになっており、今後一層の指導の充実が求められる。

(エ) 中学校第3学年の通過率の分布

【中学校 第3学年】



【考察】

通過率80%以上の設問数は、小学校に比べて少なくなっているが、通過率70%以上の設問数は、全30問のうちの3分の2に当たる20問を占めており、小学校と同様に高い通過率を示していることが分かる。また、通過率が40%未満の設問は1問もなかったことが特徴としてあげられる。中でも、

漢字の読み・書きを中心とした言語事項に関する設問については通過率が高く、基礎・基本の定着が図られていることが分かる。しかし、「読むこと」において内容を正確にとらえる問題の通過率が特に低く、今後の重点的な指導が望まれる。